

～世界に開かれた都心文化・池袋を考える～

池袋新生ビジョン 2 1 シンポジウム 2004 の記録

平成 1 6 年 2 月

池袋 2 1 世紀会議

目 次

1 . 概 要 -----	1
2 . プログラム -----	2
3 . シンポジウムの内容 -----	3
4 . まとめ -----	6

1. 概要

第2回目となる「池袋新生ビジョン21 シンポジウム2004」は、平成16年2月27日（土）午前10時から自由学園明日館で開催され、あつい討議と積極的な意見交換が行われました。

午前中は現代美術家で詩人のH・ゴルバ氏による「**差異は価値である アジアの文化創造に向けて**」と題した基調講演と専門家、学識経験者によるパネルディスカッションが行われ、午後は午前中のパネリストと一般参加者を交えたワークショップが開催されました。

その中で、副都心池袋の置かれている現状の再認識や副都心池袋の副都心文化とは何か、首都圏における副都心池袋ではなく、アジア・世界における池袋とはどうあるべきか、どう変わるべきかなど、都市整備（ハード）や文化論、経済論（ソフト）に至る幅広い意見が出されました。

2. プログラム

午前の部 10:00～12:30 (開場9:30)

講演とパネルディスカッション

開会宣言	池袋副都心協議会西口側代表	齋木勝好	10:00～10:08
基調講演	現代美術家・詩人 (通訳：上野学園大学音楽学部講師)	H・ゴルバ 段田尚子	10:08～10:50

・5分間ビデオ上映 (NHK「新日曜美術館」放映ビデオ)

・演題：「差異は価値である」アジアの文化創造に向けて

休憩

10:50～11:00

パネルディスカッション

11:00～12:30

テーマ「首都圏の副都心から、世界に開かれた都心文化・池袋」

・パネリスト (順不同)	豊島区都市整備部長 立教大学教授 日本大学教授 千葉工業大学教授 中国美術大学教授 淑徳大学教授	上村彰雄 小松善雄 岸井隆幸 古市徹雄 曹 焯 田嶋淳子
・コーディネーター	日本政策投資銀行地域政策研究 センター主任研究員	野口秀行

昼 食 12:30～13:30
(パネラーとともに昼食)

午後の部 13:30～15:00

ワークショップ (意見交換会・参加者との対話)

(午前中の講演及びパネルディスカッションを踏まえ、上記パネリストに加え、各種活動団体・各種委員会メンバー・代表、一般参加者による意見交換)

・報告者	池袋の路面電車とまちづくりの会 事務局 NPO東京アーバンクリエイティブ21 都市再生研究会 部会長 国際交流のおみこしをかつぐ会 会長	大塚謙太郎 小川治郎 富沢弘治
------	-------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------

・パネリスト等 (順不同)	豊島区長 豊島区都市整備部長 立教大学教授 日本大学教授 中国美術大学教授 日本政策投資銀行地域政策研究 センター主任研究員 現代美術家・詩人 武蔵野美術大学名誉教授	高野之夫 上村彰雄 小松善雄 岸井隆幸 曹 焯 野口秀行 H・ゴルバ 島崎 信
------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

・コーディネーター	池袋21世紀会議 / アネトス地域計画代表	上門周二
-----------	-----------------------	-------------

閉会宣言	池袋副都心協議会東口側代表	服部洋司
------	---------------	-------------

3. シンポジウムの内容

(1) 開会宣言 (池袋副都心協議会西口側代表 齋木勝好)

(2) 基調講演

「差異は価値である」アジアの文化創造に向けて

講演者：H・ゴルバ (通訳：段田尚子)

「土」はあらゆるものを生み出し、生み出されたものはまた土に帰ってゆく。土には生命力と多様性があり、文化も生み出す。これからの時代は土や自然の持つ多様性を活かし、一元化されてない新たな文化を生み出していく必要があるが、差異は価値であるとは、この土、大地を師と仰ぎ、土の精神性を発展や進歩に当てはめていくことである。

「インゴット」は経済の保証のことを表すが、互いの差異を認めることで、文化、経済、エコロジーのバランスをとることができる。

イスファハンの広場は、半分が物質性・現実社会、半分が精神性を表現し、それが一つの広場となって全体のバランスを保っている。

池袋は、イスファハンの広場のように、「差異は価値である」という精神を活かし、世界に開かれた広場になってほしいし、そうなれば発展していくだろう。

(3) パネルディスカッション (討論概要)

パネルディスカッションでは、「首都圏の副都心から、世界に開かれた都心文化・池袋」をテーマに、副都心池袋の置かれている状況、池袋の可能性、アジア・世界における池袋や池袋文化とは何かについて討論していただきました。

副都心池袋の底力の活用

池袋には西武・東武鉄道が乗り入れ、埼玉県からの来街者が多いことから、そのポテンシャルを活かすことが発展のカギになるだろう。

現在、都内で種地を利用した再開発が行われているが、池袋では種地を使い切ってしまったことから、埼玉という後背圏を底力にしていく必要がある。そのためには、池袋、雑司ヶ谷、目白、巣鴨の連携、所沢、川越等の後背圏の都市との連携が発展のカギとなるだろうし、その次の段階は一気に世界に向けての拡大だろう。

アジアの中の池袋

池袋は東京を冠とする副都心でいいのだろうか。もっと広い視野で池袋を見つめた場合、アジアの池袋というものが見えてくる。

実際、池袋は既にアジアとあらゆる回路でつながっている。アジアの国の人々がよく知っており、最初に足をおろすのが池袋であり、池袋から世界へ飛び出した者も多く、そのため池袋は世界とつながっているのである。

豊島区には16,000人の外国人居住者がいることから、アジアに対する認識を改めて、もっと開かれた都市になるべきであり、劇場都市を目標に掲げる豊島区であれば、演劇等の文化を通じたアジアとの交流を広げていく必要があり、その時、広場は人々をつなぐ役割ときっかけになっていくだろう。

池袋の特色・差異を活かす

池袋はダサイというが、それは他地域との差異でもある。これからのまちづくりで、外国人にとっては、このようなダサさや曖昧さが受けてくるだろう。そのような曖昧さを池袋は見直すべきである。

また、アジアの人々が集まり、アジアと回路を有する池袋は、アジアの起点、ふるさと、世界につながる場所であり、アジアの池袋になる可能性を持っている。そのきっかけとなるのが広場ではないか。

上海という都市は、香港・ニューヨークを目指して、歴史的建築物や特徴あるものが壊され、新しい建物が次々と建設された。その時、上海は特徴を失ってしまうのではないかと心配されたが、結果的に香港でも、マンハッタンでもない、独自の上海が構築された。その原因は上海と他の都市との差異であり、その差異があったために、上海らしさを失わなかったといえる。

池袋のマイナスイメージの払拭

池袋のマイナスイメージには犯罪に対する恐怖感からくるものがあるが、ニューヨークでは、コミュニティを形成・充実することで犯罪減少に効果が上がっている。池袋には近年薄れつつあるとは言え、元々若い人たちを見守るといった精神的土壌があり、このような精神を土台にしたコミュニティ形成がカギとなってくるだろう。

池袋のまちづくりに向けて

池袋は「エキブクロ」などとも呼ばれてきたが、これからの池袋のまちづくりを考えると、もっと楽しめる場所が必要であるし、他の都市との差異を認識していけば池袋らしさが出てくるだろう。

また、儲かるまちづくりというのが一つの課題であり、儲かるまちづくりになることで、一般の人たちもまちづくりへの興味や参加が増えてくるだろう。

(4) ワークショップ

1) 地域のまちづくり活動団体による活動内容報告

ワークショップに先立ち、地域でまちづくり活動を実践している活動団体から、活動の趣旨と活動内容を報告していただきました。

池袋の路面電車とまちづくりの会

この会は、池袋で導入が計画されているLRTとそれに伴うまちづくりを区民の立場で考え、進めることを目的として設立した地元中心の会であり、豊島区と同じ方向で進んでいる会である。会報である「iトラム」も発行している。

NPO東京アーバンクリエイティブ21

豊島区の様々な問題に対し、21世紀の豊島区のまちづくりを考え、発信していくことを目的としたNPO法人であり、都市政策研究会ではマンション建て替え問題、テナントビル空洞化問題、小中学校跡地活用問題などの討論、研究を行っている。

国際交流のおみこしをかつぐ会

この会は、ふくろ祭り外国人と日本人が一緒になって、御神輿を担ぐことを通じて、国際交流を進めていくことを目的として設立された会であり、2003年度には16カ

国の人たちが心をつなげて御神輿をかついだ。御神輿を担ぐという国際的なつながりとともに、情報交流の場にもなっている。

2) ワークショップ(意見概要)

ワークショップでは、基調講演やパネルディスカッションの内容、結果を受け、パネリストを含めたシンポジウムに参加したすべての人たちと意見交換が行われました。

LRTとまちづくり

LRTについては賛否両論がある。

LRTが人と環境にやさしく、街なかを走る身近な交通機関であるという点で認識は一致しているが、受益者負担と採算性の問題、自動車に対する交通規制の実施など、考えるべきことと覚悟すべきことがあり、また、タウンミーティングなどによる住民との話し合いが重要になってくるだろう。

グリーン大通り沿道の銀行についても、LRTに伴うまちづくり戦略として、協力して変えていかなければ、街としての魅力を生み出していくことにはならないだろうし、銀行もまちづくりに対する負担を考えていくべきである。

LRTはまちづくりのきっかけであり、東武、西武、サンシャインだけでなく、生き残りをかけた池袋のまちづくりの戦略として重要アイテムである。

御神輿とまつりと池袋

御神輿をかつぐことを通じて、国際交流を進めていくことは素晴らしいことである。御輿をかつぐのはたった1日であっても、それまでのエネルギーは大変なものであり、外国人と日本人が一緒になってかつぐことで、心を一体化させ、共通認識を持てることは、文化交流としても重要である。

美しいまちづくりに向けて

日本人は美しいものに敏感であるのに、醜いものには鈍感である。美しいまちづくりのためには、区民の認識や水準を向上させていかなければならない。

駅前の看板、放置自転車など、今からでも手をつけられることがあるのだから、地域の商店会などとも協力しながら、実施に移していくべきではないか。

まちづくりと住民参加

地方分権が進むなか、これからのまちづくりは地方から地域へとブレイクダウンしていく必要がある。地域の自治会などが、自ら考え、自ら決定し、自己責任のもとでまちづくりを進めていけば、本来のまちづくりに近づいていくことになるだろう。

これからのまちづくり

受益者負担の原則を明確にし、今ある箱ものを効率的に利用していくことが大切であり、明日館が今日まで残った思想や価値観から学ぶべきである。

豊島区が持つグリーン大通り等の公共空間を財産として活用していけば、まちづくりのきっかけになっていくだろう。

池袋に対する怖いなどのマイナスイメージを払拭し、池袋の文化にアジアやラーメンなど、多様な要素を活かしていけば変わっていくだろう。

(5) 閉会宣言(池袋副都心協議会東口側代表 服部洋司)

4. まとめ

今回のシンポジウムでは、副都心・池袋が抱える問題、特徴、可能性について、多様な意見が出されました。

池袋のポテンシャル・底力について、認識を新たにした点も数多いと言えます。これまで、首都圏の副都心として、他の副都心と比較されてきた池袋ですが、池袋の持つ潜在能力は、必ずしもその中だけでは計れない独特の環境を持っています。

既にアジアや世界に開かれている池袋、アジアと回路がつながっている池袋として、国際社会における池袋がどうあるべきか、都市論、文化論を交えて、多彩な意見が出されました。

池袋が、池袋らしさを失わずに発展していくためには、マイナスをマイナスと受け取るだけではなく、他都市との差異として認識し、その差異を活かしていくことが重要です。基調講演の中でも語られた精神性、物質性を併せ持つイスファハンの広場のような機能を池袋がどのように発揮し、多くの外国の人々とともに、未来の池袋の文化を創造していくかがカギと言えます。

しかし、池袋には足下の問題として、一般に流布されているマイナスイメージを払拭していかなければなりません。

劇場都市を目標とする豊島区を中心とする池袋が、安全で、美しく、魅力ある副都心に生まれ変わっていくためには、区民の参加や意識レベルの改革も必要です。

底力のある池袋が、LRTや御神輿をはじめとする各種のアイテムを使いこなし、国内にとどまらず、アジアの池袋、世界の池袋として、都市づくりのハード施策と文化・交流・情報・ビジネスなどのソフト施策を展開していくなかで、池袋と他都市との差異を明確に持ち続け、広く門戸を開放すれば、池袋は確固たる新生の道を歩んでいくことができるのです。